

行政データでみる精華町の森の姿

～ 里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析 ～

府大 ACTR 研究代表 田中和博

○日時／ 3月14日(木曜日)午後2時～3時半

○場所／ 精華町役場 町図書館(1階)集会室

【研究の背景】

① 放置森林の現状

- ・ マツ枯れ・ナラ枯れによる森林被害
- ・ 竹林の無秩序な拡大
- ・ イノシシ等による獣害被害
- ・ 気候変動に伴う台風の強大化および集中豪雨の多発による山地災害の懸念

② 里山管理の必要性

- ・ 精華町は、学研都市や住宅地と里山が隣接する地域
- ・ 残された里山をどのように整備、管理し、「人と自然との共生」を図るのか？
- ・ 特に、無秩序に拡大している竹林の対策は？

③ 森林環境譲与税の導入

- ・ 市町村による森林の適切管理が求められる中で、精華町の対応は？
- ・ 精華町における里山保全の指針は？

【研究の目的】

① 精華町の里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析

- ・ 国(国交省、環境省)や京都府が保有している関連基盤情報の収集と解析
- ・ リモートセンシング画像の解析と現地予備調査

② 関連する活動団体からのヒアリングによる課題抽出

- ・ 様々な立場からの、ものの見方
- ・ 活動を通して得られた知見の共有化

③ 収集・解析した里山情報の共有化

- ・ Strolly マップによる情報の共有化

④ 精華町の里山・竹林整備に向けた方向性の提言

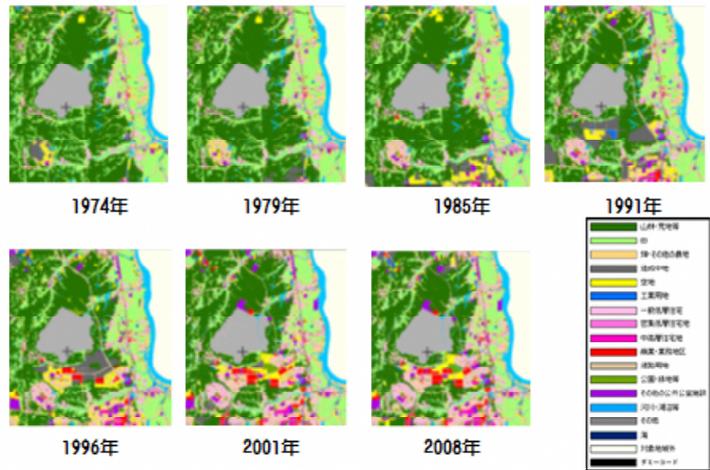
- ・ 平成31年度の活動に向けた提言

【行政データの活用】 精華町の里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析

① 地理院地図で見る
精華町の土地利用の変遷

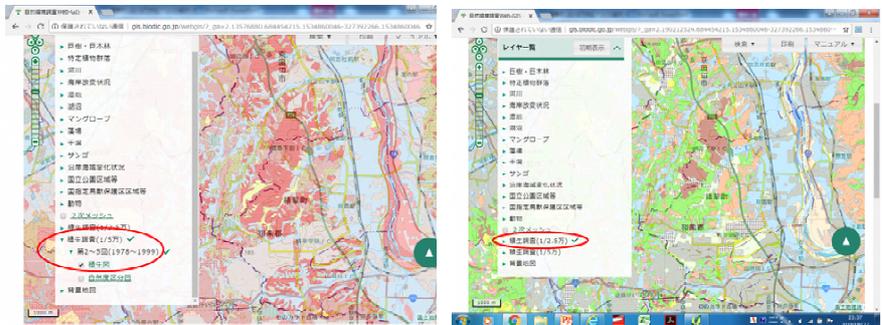
1974年～2008年までの34年間

1974年～2008年までの土地利用の変化



② 環境省のWebGISで見る
精華町の植生の変遷

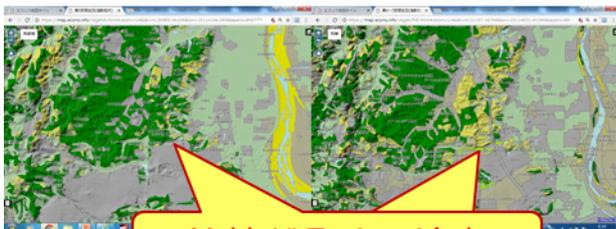
1983年～2001年までの18年間



エコリス地図タイルの陰影起伏図

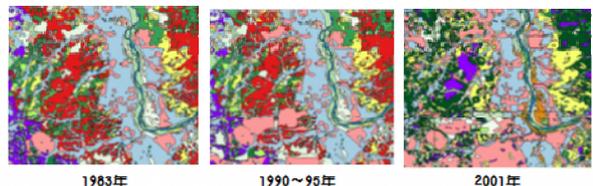
第5回植生図
1990～95年

第6～7回植生図
2001年



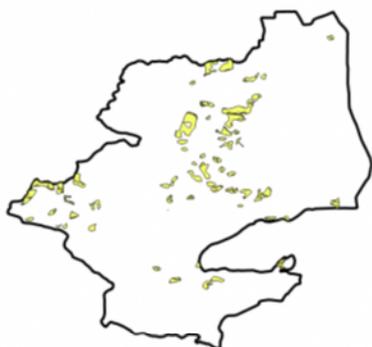
竹林が急速に拡大

GIS（地理情報システム）による解析

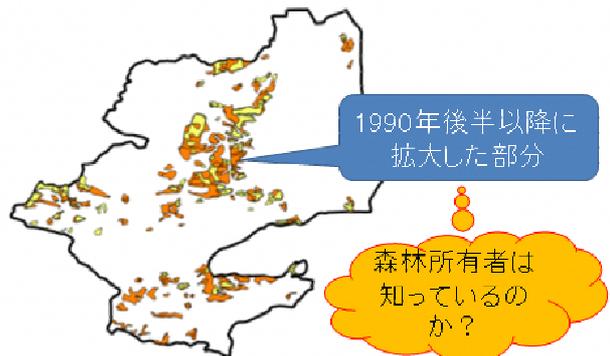


- ◆ 1980年代 アカマツ（赤色）が多かった。
- ◆ 1990年代 学研都市の開発が始まる。市街地（ピンク）
- ◆ 1990年代後半 ===== マツ枯れ =====
- ◆ 2000年代 → モチツツジ - アカマツ群集（紫色）
- ◆ 2010年代 → 竹林（黄色）の拡大
- ◇ 2010年代 ???

1990～95年における竹林の分布



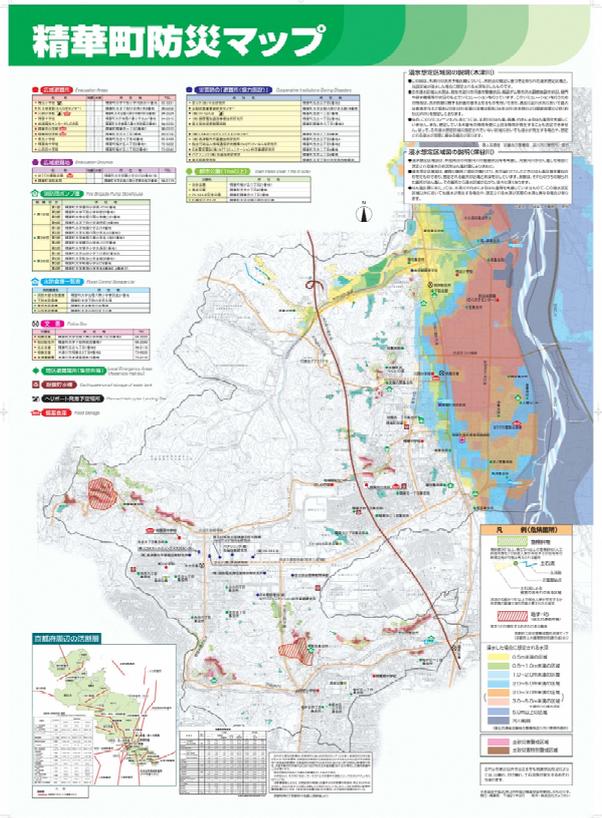
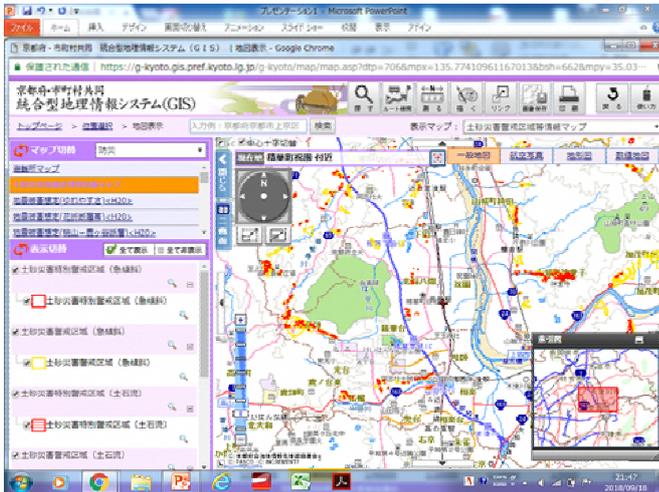
2001年における竹林の分布と拡大



【防災データの活用】

精華町
土砂災害警戒区域

京都府・市町村共同
統合型地理情報システム (GIS)



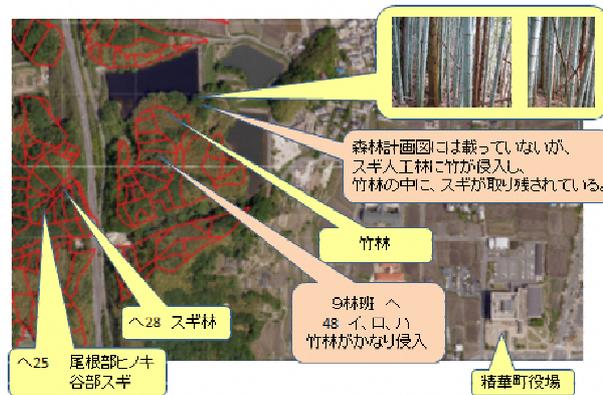
【人工林の現状】 現地確認調査 / 2018年12月27日(木)

10林班 り 79&80

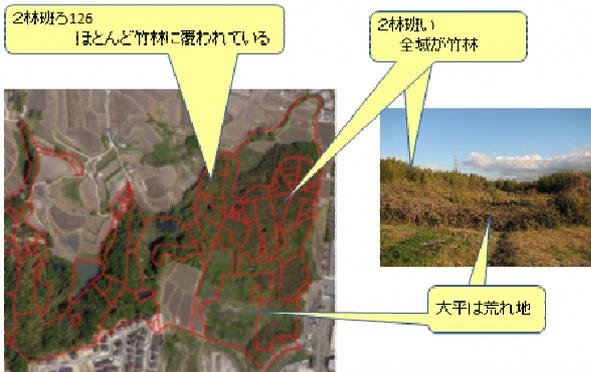


- ◆ 写真に黄色く移って行く所は、すべて、竹林。
- ◆ 昔はマツ林だった。戦後お蔵にしていた。マツ枯れ後、畑として利用しなくなった以降、竹が侵入、繁殖。

9林班 胡麻谷池 南東のスギ人工林



2林班 い



- ◆ 精華町の民有人工林は、6.5ha
実態は、スギやヒノキの人工林の中に竹林が侵入しており、見た目は、竹林になってしまっている。
- ◆ 人工林だけでなく、里山の広葉樹林も竹林に侵略されている！！

【ヒアリングによる課題抽出】活動を通して得られた知見の共有化

① せいか里山の会／ 2018.07.12

- ・7月豪雨では、東畑も鳥谷池がもしなければ大惨事だったと思う。池の水位が高かった。
- ・昔は嶽山で遊んだ。今は想像できないほど荒れた。松が竹へ。種々の植生も姿を消した。
- ・昔は山から風景を見渡すことが出来たが、竹林拡大により、見られなくなった。
- ・耕作放棄から山裾地帯の整備がされず、イノシシの範囲拡大へつながっていると感じる。
- ・弾薬庫周辺だけでも森林として保全活動される設定がされればと思う。

② 嶽山プロジェクト／ 2018.07.18

- ・精華町にも冬には渡り鳥が100～150種類ほど来る。記念公園や府大附属農場でよく見る。
- ・精華町周辺には猛禽類が10種類以上(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ、ノスリなど)
- ・キンラン(京都府の絶滅危惧種：3年前にごっそり切られたが今は看板設置して保全)
- ・東畑集会所近くにはホテルの自生地もあるが取りに来る人もいるため、公表は要注意

③ 北稲八間区／ 2018.08.01

- ・里山保全活動は、金額も年100万円程度では、長期、継続的な活動でもできることは少ない。
- ・北稲八間の自治会は水と農の交付金を受けて農道、水路、ため池等の整備を15年以上おこなっている。
- ・獣害対策として自然界に柵等の人工物は置くべきでない。いずれ朽ちて、撤去費用が大きな問題となる。
- ・モノよりもヒトに対する補助が重要。猟友会のメンバーを増やし、地域活動に溶け込んでもらえれば。
- ・定年退職後の人々に地域を担うリーダーになってももらいたい。

④ 精華町危機管理室／ 2018.09.18

- ・乾谷金堀での地すべりについて(地震後1週間)6/25 L=50m W=100m h=20m
地震との関連もあいまいなところがある。放置竹林による根の層が滑ったのではとも言われている。
- ・地すべりのあった乾谷金堀は皆所有者判明している。地目は雑種地。
- ・人工林の地権者把握については、名前は分かるが土地に住んでいるかは分からない。
- ・福知山市では地域でおこなう防災活動に対して市町村で補助をおこなっている。
- ・精華町では「経営」にのる林はない。作成する里山保全指針は「条例」でないと根拠として弱い。

⑤ 武内神社／ 2018.10.12

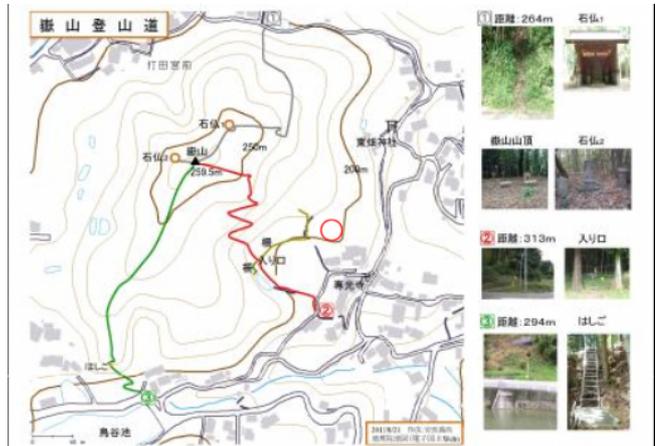
- ・北稲八間地区では、1集落1村、1社1寺の歴史が1317年から続いており、コミュニティの結束が強い。
- ・雅楽、神楽を活用して年1回舞巫女募集でも30名集まる。巫女が親世代になっても次世代が育っている。
- ・宮山の展望台の見晴らしを再生したい。駅チカ、観光農園も有ることからニーズは存在している。
- ・森の文化的景観を守り、古き良き文化(山で弁当を食べる感覚 コミュニティの関わり合い)の発展へ。

⑥ ふるさと案内人／ 2018.11.19

- ・案内人の活動の代表的なルートは精華町のまっぶるにも掲載されている。
- ・どの場所にもストーリーはある。ルートの総数は70コースは有ると思う。
- ・里山、嶽山、竹林(北稲)、神社の森なども通る。北稲は武内神社とも連携してルート整備している。
- ・整備されない里道を整備も行う。(里山奥口谷湿地～自衛隊南門まで木道おきたい)

【里山情報の共有化】 Stroly マップによる情報の共有化

- ◆ Stroly マップは、精華町発のベンチャー企業である Stroly 社が開発したアプリであって、手書きの地図やランドマークの属性情報を、Stroly 社のサーバーへアップロードして位置座標を付加すると、無料で登録することができ、URL が付与されるので、その URL をスマホで閲覧すると、画面上に手書きの地図と自分の現在地が表示され、ランドマークをクリックすると、ランドマークの説明文や写真等が現れるという仕組みです。



【今後の取り組み】 精華町の里山・竹林整備に向けた提言

- ◆ 現地モニタリング調査の継続と拡充
- ◆ 森林ゾーニングとゾーニング別対応策
 - ・ 生物多様性の保全、特に、口谷の湿地
 - ・ 外来種対策
 - ・ 竹林拡大の防止
- ◆ 環境保全活動の推進と拠点作り
- ◆ 里山環境情報の整備と共有化
- ◆ 里山（木材）・竹林（竹材）の有効利用

精華町の里山保全について考えよう！！

精華町森林ゾーニング(案)



里山を保全し、その恵みと文化を次世代に継承しましょう！！